

か た ち の か け ら

a piece of form
Marie Nohara
solo exhibition

展覧会 趣旨

甲南大学では毎年、国内外で活躍する美術家を招いて展覧会を行っています。
この展覧会の企画・運営は、博物館実習生が中心となって取り組んでいます。
今年は、大阪市を拠点に個展・グループ展やワークショップなど各地で精力的な活動を
続けている気鋭の画家・野原万里絵（のはら・まりえ）氏をお招きして展覧会を開催します。
京都市立芸術大学、同大学院出身の野原氏は、身の回りの風景や音などの環境、文字、
自分で拾ってきた石などに触発されながら、求道者のように誠実に描くことと向き合ってきた
画家です。日々、呼吸をするように繰り返されるモノクロームのドローイングを起点に、
絵画のさまざまな可能性を探り続け、日本各地での滞在制作や展覧会への招待、
パブリックスペースへの作品設置など、多岐にわたる活動を展開してきました。
2024年には、これまでの活動が評価され、大阪府が制定する「咲くやこの花賞」を
受賞しています。神戸では、2024年新開地アートひろば、city gallery 2320に続く
個展となります。ギャラリー・パンセの明るく開放的な空間と野原氏の作品の響き合いを
ぜひお楽しみください。

略歴

1987年 大阪府生まれ
2012年 Royal College of Art 交換留学
2013年 京都市立芸術大学大学院 美術研究科絵画専攻（油画）修了

主な展覧会

2024年 ニューあそび場の創造 vol.12 個展「絵画になるまで」/ 新开地アートひろば / 兵庫
野原万里絵 ドローイング展「洞の絵」/ city gallery 2320 / 兵庫
2023年 art resonance vol.01「時代の解凍」/ 芦屋市立美術館 / 兵庫
ホルベインスカラシッパ成果展 2023 / N&A Art SITE / 東京
個展「残映を編む」/ イチノジウニのヨン / 大阪
2022年 野原万里絵 ドローイング展「雑景のパターン」/ 千鳥文化ホール / 大阪
VOCA展 2022 現代美術の展望—新しい平面の作家たち— / 上野の森美術館 / 東京
2021年 大阪府 20世紀美術コレクション展「彼我の絵鑑」/ 大阪府立江之子島文化芸術創造センター(enoco) / 大阪
2020年 個展「埋没する形象、組み変わる景色」/ 青森公立大学国際芸術センター青森 / 青森

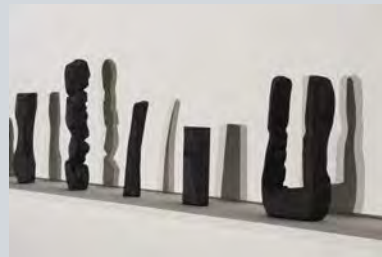
会期・会場

2025年9月19日（金）～11月7日（金）会期中無休

甲南大学ギャラリー・パンセ（甲南大学5号館1階）
〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1
阪急神戸線岡本駅より西へ徒歩10分、JR神戸線摂津本山駅北口より北西へ徒歩12分
＊駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。
お問い合わせ先：078-435-2572（担当教員：服部）
078-435-2675（文学部事務室）



《文字以前 05》2023年
撮影：増田好郎



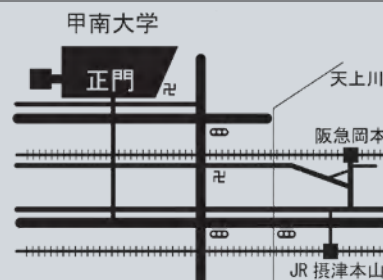
《黒の立体 - 計測のドローイングより-》2020年
撮影：小山田邦哉 写真提供：国際芸術センター青森



《石を囲む 03》2023年
撮影：増田好郎

関連イベント

トークイベント「リサーチから制作へ」
10月26日（日）14:00～15:30
ゲスト 野原万里絵（出展作家）
伊達伸明（美術家）
池上司（A-LABアートディレクター）
聞き手 服部正（甲南大学文学部）
会場 甲南大学5号館1階
511教室（ギャラリー横）
予約不要・聴講無料



写真はすべて参考写真です。掲載されている作品が展示されない場合もあります。このチラシは授業の一環として博物館実習生がデザインしました。